



喜多川氏は、昭和45年、愛媛県生まれ。東京学芸大学卒業。
卒業後教育者を目指し大手の学習塾に就職、後に独立し、1998年横浜に新たな学習塾を立ち上げた。塾生の学習意欲を高めたり人生教訓を教える為、毎度授業の前の時間を使って話をしていたが、ある塾生からそれらの話を本にまとめてみたらどうかといわれたのを

この『聞』の拙い巻頭言を、七転八倒しながら書き続けて29年。時に暗くないよう留意しつつ、最も心してきたのは、「普通の日本語」で書くこと。仏教は専門用語が多く、伝える側も受け取る側も「わかった気」になってしまう危険性があるからです。

拙寺にお招きした「講師にも、本山の教導さんにも」「仏教用語で話をまとめないで下さい。日本語じやありませんから」と生意気を言つてきました。

中学校教諭をしている長女が、喜多川泰氏という作家の書いた本を持ち込んできました。何気なく手に取つて読んでみると、これがものすごく面白いのです。全著書20冊を取り寄せて、夢中になつて読みました。すべてに浄土真宗の考え方がきちんと入っているのです。それも、普通の日本語で。「自分こそ浄土真宗の押し売りをしていました」と思わず唸りました。

3年前に出版された喜多川氏著『運転者』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)から出版した。

Wikipediaより

切っ掛けとし、本業の傍ら自身のデビュー作となるファンタジー風の自己啓発書『賢者の書』を執筆、2005年にディスカヴァー・トゥエンティワンから出版した。

淨土真宗の 押し売り 住職 楠々祐慈

頭はパンク寸前。
「なんで俺ばかりこんな目に遭うんだよ」
思わず独り言を言つた修一の前に一台のタクシーが現れる。乗つてみると、若そうに見える運転手はなんと行き先も修一の名前も知つている。メーターを見るとべらぼうな数の69,820。ところが数字はどんどん減っていく。「この数字が0になるまで乗り放題です」と運

「いいですか岡田さん。人生において『誰のせい』でこうなったと思つてるんだ』なんてセリフ、二度と使つちゃダメですよ。だってね、あえて言うとですよ、あなたのせいですそなつたんですから」

運転手はその度に車中で、修一に人生を変える考え方を諭していく。修一は運転手を「おまえ」と呼び、反発し暴言を吐き続ける。しかし運転手は優しく厳しく修一を導いていく。

転手は言う。「運を変えるのが僕の仕事です。岡田さんの運が良くなる場所にお連れするのが仕事です」

それから事あるごとにタクシーは現れて、さまざまな場所に修一を連れて行く。しかし修一は、いつもイライラと機嫌が悪く、自分の人生は運が悪く、ついてないことばかりが起ること思つている。頑張つてのに報われないと想い込んでいる。実家の文具店は商店街の衰退とともに閉店。父は半年前に突然他界。一人暮らしの老いた母の面倒とシャッター通りの売るに売れない家をどうするか。修一の

「いいですか岡田さん。人生において『誰のせい』でこうなったと思つてるんだ』なんてセリフ、二度と使つちゃダメですよ。だってね、あえて言うとですよ、あなたのせいですそなつたんですから」

「俺のせいだって?」

運転手の言葉に修一は、今までの人生で凝り固まっていた固定概念が徐々に崩れ、少しづつ生きる上での考え方、価値観が変わつて

ゆく。連れて行かれた先で「何が起ころかわからないが、起ころことを楽しんでみよう」と思うようになつてから、起ることが次々とつながっていく」。

本の題名は、別れ際の修一のセリフ「ありがとう。あんたは〈運転手〉というよりも、俺の人生を転じた〈運転者〉だよ」から。

喜多川氏の著書はすべて小説であり啓発本です。決して宗教の本ではありません。だから話の中に南無阿弥陀仏も仏教用語も一切出てきません。しかし、機の深信も三定死も連續無窮も、きちんと実際に読み取れるのです。教えを伝えるというのは、本来こうあるべきだと思うのです。

言葉に出遇つて感銘を受けるのは、その背後に仏法が躍動しているからなのです。運転手の台詞をお届けします。

「運がいい人なんていないし、運が悪い人なんていない。運はそういうものじゃないんですよ」

「そのポイントカードは五百円の商品券として使えるんです。どうしてかわかりますか？ ポイントが貯まってるからです。ポイントカ

ドをもらった瞬間に五百円として使わせてもらって、あとからポイントを貯めるつてことがありますか？」

運だって同じなんです。でも、多くの人は『運がいい』と言うとき、その前のことを持たく無視して、突然いいことが起ることのように期待してるでしょ」

「運は〈いい〉か〈悪い〉で表現するものじゃないんですよ。〈使う〉

〈貯める〉で表現するものなんです。だから先に〈貯める〉があるて、ある程度貯まつたら〈使う〉ができる。周囲から〈運がいい〉と思われている人は、貯まつたから使つただけです。「貯まつた運を使うとき、周りから『ついてる』って見えるだけです」

「頑張っても報われないとときは運が貯まっているんですよ。努力を

してすぐ結果が出たり、何かいいことが起こつたりする人は、貯めた運を小出しに使っているだけで、他の

人より取り立てて運がいいわけではないですよ。同じだけ努力をしたのに結果が出なかつた人は、その

分、運を貯めたんです。あとでもつといふことが起こります」

「人生には〈幸せの種〉がたくさん落ちているつて話しましたよね」

「頑張つて命の物語のほんの一

う人はみんな、種を蒔いてそれを育てているんですけど、ちゃんと収穫時期の前に『まだ育たない』と言つて嘆いているようなもんです。もっと長い目で見たら、報われない努力なんてないんですよ。あまりにも短い期間の努力で結果が出ることになつてしまふかもしれませんことを期待しすぎているだけです。今日頑張つて明日実になるなんてどんなに早く育つ種でも無理なことですよ」

「運にしても成果にしても、〈今の自分〉という、ものすごく狭い世界の、短い期間でしか判断しないので、〈運が悪い〉〈努力は報われない〉と簡単に結論づけてしまいます。でも、実際に今の自分がやつた努力の成果が自分に対して表れるのはそれこそ十年とか、場合によつては百年とか」

「しかも、その成果は自分に表れるとは限らない。むしろ、自分の周りの大切な人とか、次の世代とか、そういうところに表れてくることは限らぬ。それなのに努力をしただけある。それなのに努力をしたり頑張つたら、今すぐ自分にいこうが起こらなければ〈運が悪い〉〈努力は報われない〉つて大騒ぎです。〈今すぐ、自分だけ〉って

考えすぎなんですよ。自分の人生が延々と続く命の物語のほんの一

部であることを知らないんですね」「人間の一生が、自分だけの物語の完結だと思って生きるのであれど、生まれたときに与えられた条件を使って、できるだけ自分の欲望を満たした方がいい人生だという事になつてしまふかもしれません」

が、実際には人間の一生は、延々と続く命の物語のほんの一歩でしかありません」

「受け継いでいくのは命だけではありません。あなたは、自分じゃない誰かが作つた社会に生まれてきて育ちました」「たくさんの血と汗と涙、そして努力、極論、命が費やされて作られてきたものです。〈あつた〉ものではなく、命と引き換えに〈作られた〉ものなのです」

「それぞれの時代に生きた人が、延々と続く命の物語の一部を精一杯、自分の役割を果たすように生きてくれたから、次の世代は、前世代よりも〈いい時代〉に生まれる事ができるようになる。そして今あなたが、その命の物語といふバトンを受け取つて生きているんですよ」

押し売りでない浄土真宗の世界

大型テレビをご寄贈

「お寺の皆さん方に役立てて頂きたい」と
齊名勝秋さんが65型4Kテレビ（フルハイ
ビジョンの4倍の画素数）をご寄付下さい
ました。画面サイズが縦81cm×横144cmも
あり、広い本堂でも大迫力の映像が楽しめ
ます。本当にありがとうございました。



総代就任
川口 洋さん



総代退任
齊名勝秋さん

寺役人事のご挨拶

本堂完成・御遠忌円成をもって役を
引かせて頂きます。募財時は難儀な
思いもしましたが、今出来上がった
本堂に座っていると、本当に総代を
勤めさせて頂いて有り難かつたなあ
とつくづく思います。ご支援ご協力
賜った皆さんに感謝申し上げます。

母は若い頃からお寺とご縁が深く、
子どもたちも日曜学校で幼い頃から
お世話になり、カメラが趣味の私は
お寺で写真を撮るようになって縁が
深まってきました。今回、総代を
拝命するに当たり、身が引き締まる
思いです。宜しくお願ひ致します。

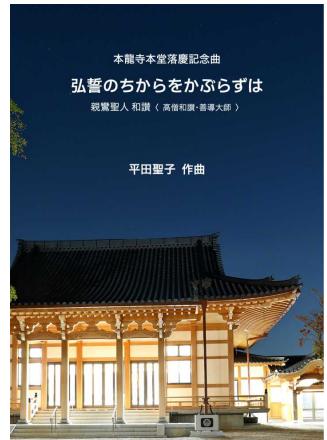


和泉の歴史書誕生

A4判・230頁
糸綴じ上製本
(ハードカバー)



昨年10月、和泉町史編集委員会が
5年間の歳月をかけた和泉町の歴史
書が満を持して完成、町内に配布
されました。和泉は縄文時代より
三千年以上の歴史があり、明治期
までの歴史書『明治村史』は存在
するものの、それ以降の記録書は
ありませんでした。本書は、特に
昭和期を中心にして、現在までの
大変貴重な資料大全集となっています。
委員各位の多大なご尽力に、
深く敬意と賛辞を贈る次第です。



本堂落慶記念曲 CD発売！



「親鸞和讃による組曲 いちいちのはな・いざ！天竺へ」
平田聖子先生による待望のCDニューリリース！

拙寺本堂落慶記念曲「弘誓のちからをかむらはずは」収録
本体2,000円+税 お求めは、株式会社 法藏館より
拙寺にも在庫あります

I. 親鸞和讃による組曲 いちいちのはな

- 01 弘誓のちからをかむらはずは 混声四部合唱 [05:11]
- 02 正覚の華より化生して 混声四部合唱 [02:30]
- 03 いちのはな 女性二部合唱 [01:54]
- 04 相好ごとに百千の 混声四部合唱 [03:40]
- 05 相好ごとに百千の 混声四部合唱 + 児童合唱 [03:31]

II. いざ！天竺へ 室内楽曲 [04:57]

- 付録 07 弘誓のちからをかむらはずは 女性二部合唱 [04:57]
- 08 相好ごとに百千の 女性二部合唱 [03:29]

報恩講 令和2年12月3・4・5・6日 全9座 法話と公演は、榎山正樹師・藤原千佳子師・長谷部頃山師・小山要子師・藤岡千恵美師・中川享子師・秋田千夏師・一楽真師・田中ふみ枝師・亀井鑑師。コロナ禍で最善を尽くし、553回目の報恩講を総力で勤めました。



行事写真報告

昨年12月から
今年4月まで

本龍寺通信《番外編③》

和泉の本龍寺

検索

～ハッとしたとき出るエッセイ～

せぢ守のひとりごと

愛知県安城市和泉町中本郷41

2021年1月1日号

「コロナ禍での報恩講」

秋のお彼岸が終わってすぐ、12月の報恩講に向けての「コロナウイルス感染症対策委員会」が立ち上りました。同朋婦人会、恵信尼会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、正信会、廿日会、みどりの会、根育ての会、お灸を楽しむ会、仏華の会、合唱団のそれぞれ三役さん約30名が、秋季彼岸会の反省を元にして来たるべき報恩講をいかに迎えるかを考える意見交換会でした。

秋の彼岸会は法要と法話は従来通り行いましたが、コロナ対応としてお斎はお弁当形式にして持ち帰って頂きました。その他にもスタッフの手洗い＆梅酢でうがい、マスク着用の徹底、調理室と作業場アルコール消毒、参詣者を含めた全員の無接触体温計での検温、健康チェックシート記入などを実施しました。しかし、やむなく止めてしまった恒例のお抹茶接待だけはどうしても心残りでした。

対策委員会で出た意見をまとめ、コロナ対策をマニュアル化しました。そして10月と11月の各法話会では、実際に現場で実施してみて問題点を洗い出しました。

報恩講は一年で最も重たい仏事です。コロナ禍で行事縮小の動きが広がっていましたが、戦国時代に我々の先達は衣の下に鎧を着けて報恩講を勤めたと聞いています。細心の注意と準備を持って、真宗寺院の伝統と誇りを守りたいと決意していました。

報恩講の役割分担に「コロナチェック係」が出来ました。本堂前テントで参詣者のチェック＆検温済シール貼付（法要前50分～法話開始10分後まで）、チェックシート記入（氏名・電話番号・体温・マスク・体調・手の消毒）、法話後すべての机・イス・背もたれトレーを除菌シートで拭き上げることを徹底しました。



本堂係は、事前の準備として参詣席（最前列机と背もたれテーブル）にお菓子袋を配り、窓を開けて換気して、ディフューザー（加湿器）をセット。勤行本を貸し出す際に除菌シートも添付。法要と法話の間、日程前後に窓を開けて換気。念願のお抹茶接待も復活しました。抹茶茶碗は5分間煮沸消毒して、お菓子はビニールを取らずに懐紙に乗せ、使い捨ての黒文字をつけました。一座終了する毎にテーブルとイスを除菌シートで全て拭き上げました。

お料理を作る同朋婦人会さんは、特に細心の注意を払って下さいました。

手指消毒まで徹底し、同朋会館全体を調理場として三密を避け各部細部のアルコール消毒には念には念を入れました。

お寺のスタッフ全員が一丸となり、本当に一生懸命、報恩講実施に取り組んで下さいました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。そして、本龍寺にご来寺の方には、今後とも安心してご参詣頂けますよう、ご報告申し上げる次第です。



坊守 樋口頼子

新年修正会

令和3年1月1日
9:00・10:30

新年のご挨拶式。三密を避けるため対象別二部制で実施。お屠蘇乾杯とお抹茶接待はやむなく取りやめに。



第1部



第2部

第2回緊急事態宣言（2021年1月8日～2月28日）のためすべての教化行事を中断

子ども日曜学校・もちつき

1月に出来なかつた恒例の餅つき。子ども会役員さんご協力のもと、安全対策を万全にして実施。



3月14日



味噌作りの会

毎年2月の開催を3月上旬に規模を縮小して開催しました。家族の幸せを祈りつつ、みんなでワイワイとするお味噌はやっぱり味が違います。

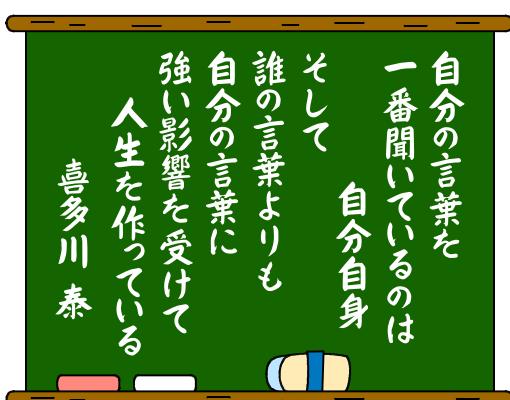




子ども上山研修

一昨年は御遠忌法要、昨年はコロナ禍のため実施できなかった研修を京都日帰りバス研修として、現中学2年1年と小学6年生で行いました。





が あ
き と

第73号をお届
け致します。
3回目の緊急

事態宣言が出され、先が
見えない状況が続いてい
ます。今、私たちがする
ことは、何年か経った時
「あのコロナ禍の時期が
あつたから今がある」と
言える毎日を送ることで
はないでしょうか。(頼)

四月	三月	二月	一月
被爆してそれでも賢く桜散る 故・早川賢氏を偲んで 令和三年三月一日往生	コロナ世に響け念佛報恩講 合掌を解けば御堂へ春流れ 葉桜が舞い降りている石置	早川正博 早川正博 春を編む和泉町史の偉人在り 故・原文男氏を偲んで 令和二年二月六日往生	黄泉は常春再開はリモートで 基地よりも野原は蒲公英言い残し 早川正博 春を編む和泉町史の偉人在り 春を編む和泉町史の偉人在り 春を編む和泉町史の偉人在り
門前のひとつばたごや無垢の花 荒波に負けるな孫と鯉のぼり	早川美津江 早川美春 桶口頼子	沓名美津江 沓名光江 桶口頼子	早川正博 早川正博 沓名光江

本龍俳壇

お寺や仏事にちなんだ歌をお寄せ下さい。本堂内の南掲示板は投句コーナーです。ぜひご覧下さい。